

## 『国語年鑑』の分野区分にみる研究動向の変遷

八木下孝雄

『国語年鑑』は、1954 年から 2009 年まで国立国語研究所で刊行されていたもので、研究文献情報（以下「文献情報」とする）を中心に学界の情報が掲載されていた。文献情報は、当然ながら当時の研究の状況等が反映されたものになっており、それらを分析することで、1950 年代以降の日本語研究の動向を見ることができる。

これまで、長期間にわたる日本語研究全体の研究動向について見たものは多くない。本発表では、『国語年鑑』の文献情報の分野区分を見ていくことで、日本語研究が 1950 年代以降どのように行われてきたのかを概観することを目的とする。

『国語年鑑』の文献情報は、創刊号の 1954 年版から 1989 年版までは、刊行図書・雑誌論文・新聞記事の 3 つの区分で、また、1990 年版からは刊行図書・雑誌論文の 2 つの区分で情報が掲載されている。刊行図書・雑誌論文の文献情報は、それぞれ分野ごとに整理されている。分野は、大きな分野の中に下位の分野がつけられており、3 層から 5 層の構成になっている。

本発表の方法としては、『国語年鑑』に掲載されている文献情報のうち、特に掲載件数の多い、雑誌論文の分野区分を調査する。分野区分の変遷を分析し、そこから見られる日本語研究の動向について考察を加える。

『国語年鑑』の分野区分の決定は、文献情報を作成した担当者によるものであるが、学界の研究動向とは無関係ではないだろう。分野区分の変遷を分析することで、1950 年代から 2000 年代までの日本語研究の動向について把握できることが見込める。